

レクリエーション専門志向化と主観的幸福感・レジャー満足度の関係 —アメリカ在住の釣り人を対象に—

○松本秀夫 [東海大学・東京海洋大学大学院] 佐藤晋太郎 [フロリダ大学大学院]

浅田瑛 [フロリダ大学大学院] 千足耕一 [東京海洋大学大学院]

キーワード：レクリエーション専門志向化 主観的幸福感 レジャー満足度

I. はじめに

多くの人は、「幸せな人生を送りたい」と感じ、親は我が子に、「幸せな生活を送ってもらいたい」「幸せな人生を築いてもらいたい」と願っている。現代社会において「幸せ」は、FreyとStutzer(2010)が、幸福は人生の最も重要な目的であることを示しているように、重要な意味を持っていると考えられる。

レジャー活動参加と幸福感・満足度の関係については、多くの研究がポジティブな結果を示していることから、レジャー参加者の幸福感・レジャー満足度は、レジャー活動の継続的な実施によって増加することが考えられる。Bryan(1977)は、継続したレジャー活動経験の中で技能・知識を修得し、関与を高めることによって態度や価値観が変化することに着目した。そしてレクリエーション専門志向化 (Recreation Specialization:以下 RS) を「スポーツで使われる用具や技能、活動場面の選考によって一般から特殊へ続く連続体」と定義している。RS は、参加者を類型化する測定指標として多くの研究で用いられ、レジャー行動の分析変数として用いられている。前述のようにレジャー活動と幸福感の関係についての研究は多数行われているが、レジャー経験の経過に伴う RS の度合いと幸福感に関する研究は見当たらない。RS に伴って態度や価値観の変化が起こることとは、RS することによって主観的幸福感に何らかの影響を与えている事が考えられる。

本研究は、RS 指標、主観的幸福感尺度 (Subjective Happiness scale: 以下 SHS) を用いて、アメリカ国内在住の釣り人を対象に、RS の度合いと主観的幸福感、関連するレジャー満足度 (Leisure Satisfaction: 以下 LS) の関係を明らかにすることを目的とした。

II. 方法

1. 対象：アメリカ在住の釣り人 465 回収、有効回答 365 (男性 253、女性 112)
2. 調査期日：2014 年 5 月
3. 調査方法：オンライン調査、
4. 調査パネル：Amazon Mechanical Turk (謝礼 80¢)
5. 調査項目：RS 指標 (感情・認知・行動局面 19 項目)、SHS (4 項目)、LS(1 項目)、性別、年齢、世帯収入
6. 解析：確認的因子分析(CFA)、Two-Step クラスタ分析、共分散分析、SPSS21.AMOS21

III. 結果

RS の 3 局面 7 因子に対して CFA を行った。その結果、 $\chi^2/df=2.43$, CFI=.96, NNF=.94, AGFI=.87, RMSEA=.069 であり、AGFI は基準値をやや下回ったが、適合度指標が許容値を示したことから、データがモデルに適合したものと考えられる。内的整合性としての Cronbach の α 係数と収束的妥当性を支持する指標としての平均分散抽出 (AVE) を算出した。 α 係数は Equipment 因子が 0.64 とやや低いが生きてすべての変数において整合性が認められ

た。AVE は基準値 (AVE ≥ .50) を上回った。

RS の各因子の Two-step クラスタ分析を行った。その結果 3 クラスタ (Advanced・Intermediate・Beginner) を採用した (表 1)。

SHS・LS と RS の共分散分析を行った。また、従属変数に影響を及ぼしている可能性がある世帯年収を共変量とした。SHS においては専門志向化クラスター (F (2,354) = 5.32, p = 0.018, $\eta^2=0.022$) の主効果、及び共変量の世帯年収 (F (1.354) = 14.23, p < .001, $\eta^2=.039$) に有意な関係が見られた。

Bonferroni の多重比較を行ったところ、SHS の得点は RS クラスタの Advanced が Intermediate・Beginner より有意に高かった (図 1)。

LS においては RS クラスタ (F (2,354) = 82.29, p < .001, $\eta^2=0.32$) の主効果が有意であった。Bonferroni の多重比較を行ったところ LS 得点は Beginner < Intermediate < Advanced の順に有意に高かった (図 2)。

IV. 考察

リサーチモデルを図 3 に示した。RS モデルは、CFA からおおむね支持された。しかし、適合度指標の AGFI が 0.87 とやや低く検討の余地が認められる。RS と SHS の関係は支持された。しかし、SHS の効果量は 0.022、共変量の収入の効果量も 0.039 であり、Beginner と Intermediate の差も認められなかったことから RS と SHS の関係については、更なる研究が必要である。LS との関係は $\eta^2=0.32$ と高い効果量で支持され共変量も有意ではなかった。また、Beginner < Intermediate < Advanced 順で高く、RS の進行に伴って LS が高まることが示唆された。

LS との関係は $\eta^2=0.32$ と高い効果量で支持され共変量も有意ではなかった。また、Beginner < Intermediate < Advanced 順で高く、RS の進行に伴って LS が高まることが示唆された。

V. まとめ

レクリエーション専門志向化と主観的幸福感との関係を明らかにするために、アメリカにおける釣り人を対象に調査を実施した。その結果、レクリエーション専門志向化と主観的幸福感・レジャー満足度の関係を明らかにすることができた。今後は、RS 指標の再検討、種目の相違、日本との比較を行うことが課題である。

引用・参考文献

Frey, B. S., and Stutzer, A. (2010) Happiness and economics: How the economy and institutions affect human well-being. Princeton University Press.
 Bryan, H. (1977). Leisure value systems and recreation specialization: The case of trout fishermen. Journal of Leisure Research, 9, 174-187.

表 1 クラスタ分析結果

Variables	Number of Items	Cluster1		Cluster2		Cluster3	
		M	SD	M	SD	M	SD
Attraction	3	6.84	0.30	6.05	0.62	4.64	0.88
Self-expression	3	5.99	0.78	5.13	0.88	4.26	0.95
Centrality	3	5.99	0.70	4.77	0.84	2.84	0.96
Knowledge	3	6.34	0.58	5.24	0.79	3.76	1.05
Skill	3	5.88	0.67	4.76	0.70	3.28	0.68
Equipment	2	6.14	0.65	5.25	0.71	3.74	1.07
Resistance to change	2	6.47	0.55	5.47	0.81	3.56	1.10
Happiness(SHS)	4	5.31	1.18	4.9	1.15	4.77	1.19
Leisure Satisfaction	1	6.57	0.53	6.00	0.71	5.07	0.85

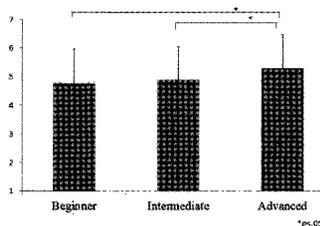


図 1 専門志向化と SHS の関係

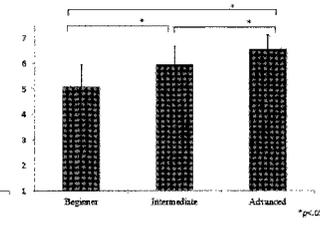


図 2 専門志向化と LS の関係

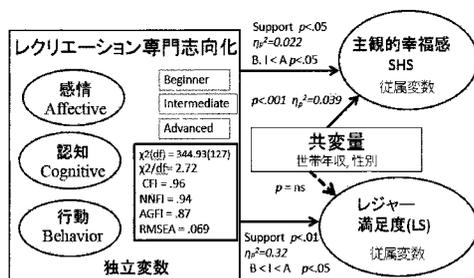


図 3 リサーチモデル